

第3学年 国語科 学習指導案

日 時 2025年9月2日（火）

第3校時 10:45～11:35

対 象 第3学年D組 33名

会 場 3年 D組教室

1 単元名

慣用句・ことわざ・故事成語 「国語3」（光村図書）

2 単元の目標

- 慣用句やことわざ、故事成語の意味や由来を理解し、文脈に応じて適切に読み取り、使い分けることができる。
- 表現がもつ文化的な背景や教訓に関心をもち、自分の表現をより豊かにしようとする態度を育てる。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 慣用句を使って短文を作ったり、ことわざ・故事成語の意味や使い方を調べたりしている。	① 慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方を積極的に調べ、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。

4 単元指導計画（全1時間扱い）

時	目標	学習内容・学習活動	評価
1 本時	○慣用句やことわざ、故事成語について理解を深め、語句の意味や使い方を調べたり、語句を用いて短文を作ったりする。	<ul style="list-style-type: none">慣用句・ことわざ・故事成語とは何かを理解する。初めて知った語句の意味や使い方を調べる。練習問題に取り組む。慣用句・ことわざ・故事成語を使って短文を作る。	ア - ①【プリント・観察】 ウ - ①【プリント・観察】

5 生徒が主体的に学び続けるための工夫（個別最適な学び）



- 自分の理解度に合った問題を選択して取り組ませる。（キュビナ）
- 自分の知らない語句はその都度、タブレット端末で調べられるようにさせる。
- 自分で好きな語句を選択させ、その語句を使って短文を作る。作る短文の数も自分で決めさせる。
ことわざであればテーマ（努力系・友情系・失敗から学ぶ系）、故事成語であれば分野（歴史・戦略・人物エピソードなど）を具体的に示し、短文作成のヒントとさせる。

6 本時の指導（全1時間中の1時間目）

(1) 本時の目標

慣用句やことわざ、故事成語の意味や由来を理解し、文脈に応じて適切に読み取り、使い分けることができる。また、それらの表現がもつ文化的な背景や教訓に関心をもち、自分の表現をより豊かにしようとする態度を育てる。

(2) 本時の展開

	○学習活動 ◎主体的に学び続けるための視点	□指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活を振り返り、慣用句・ことわざ・故事成語について知っている語を挙げる。 ○本時の目標を確認する。 <p>慣用句やことわざ、故事成語について理解を深め、語句の意味や使い方を調べたり、語句を用いて短文を作ったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> □「腕を上げる」「腕を磨く」「腕が鳴る」を例に、本来の語句の意味と慣用句としての意味を比較させる。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書P122、P123を読み、慣用句・ことわざ・故事成語について理解する。 ○キュビナの問題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・初めて知った語句は、意味や使い方をタブレット端末で調べてプリントに書き込む。 ○ワークP91の9「短文作り」の問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> □自分の理解度に合った問題を選択させる。 □間違いの多かった語句、注意すべき語句（本来の意味と異なってとらえられやすい語句）については説明を加える。 ◆アー①（プリント・観察） □キュビナの取り組み状況を教師が隨時把握する。（進んでいない生徒は支援する。） □短文を作るときは、必要に応じて二文に分けてもよいことを伝える。
個別最適な学びを取り入れた学習活動 5分	<ul style="list-style-type: none"> ◎本時に学習した語句の中から好きな語句を選択し、その語句を使って短文を作る。作る短文の数も自分で決める。 ○作成した短文を班で紹介しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> □作る短文の数は自分で決めさせる。 ◆ウー①（プリント・観察）
まとめ 5分	○本時の振り返りを行う。	□日常生活の言葉を振り返って新たに気づいたことや、本時の学習を今後どのように生かしたいかを書かせる。